

言いかえてみよう！慣用句プリント①

手・口・目・耳の ことば ふつうの 言い方 ↔ 慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい 道で 友だちと 油を売った。 → 道で 友だちと おだ話を して すごした。(かならず入れる言葉：おだ話)
下の れい きのうの けんかは、もう なかった ことに しよう。 → きのうの けんかは、水に流そう。

1 ふつうの 言い方に 書きかえよう

右の「かならず入れる言葉」を 使って 書きます

- (1) 弟の いたずらに、母は 手を焼いて いる。

かならず入れる言葉：こまっ

- (2) あの 人は 口が軽い ので、ひみつの 話は できない。

かならず入れる言葉：しゃべって

- (3) いつも ちらかして いると 言われて、耳が痛い。

かならず入れる言葉：つらい

- (4) 兄は マンガに 目がない。

かならず入れる言葉：大すき

- (5) 引っこしの とき、近所の 人が 手を貸して くれた。

かならず入れる言葉：手つだって

2 慣用句を 使って 書きかえよう

下の 箱から えらびます。使わない 言葉も あります

- (6) クラスの みんなが、同じ ことを いっせいに 言った。

- (7) ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は とても おどろいた。

- (8) 先生の 話を、みんなは しんけんに 聞いた。

- (9) なくした 消しゴムを、見のがさない ように 一生けんめい さがした。

- (10) そうじの 時間に、ぼくは めんどくで いいかげんに やって しまった。

ことばの 箱

目が高い

口をそろえる

手を抜く

耳にタコができる

目を皿にする

口が堅い

耳を傾ける

目を丸くする



言いかえてみよう！慣用句プリント①【こたえ】

手・口・目・耳の ことば ふつうの 言い方 ↔ 慣用句

なまえ _____
ひづけ _____

上の れい 道で 友だちと 油を売った。 → 道で 友だちと おだ話を して すごした。（かならず入れる言葉：おだ話）
下の れい きのうの けんかは、もう なかった ことに しよう。 → きのうの けんかは、水に流そう。

1 ふつうの 言い方に 書きかえよう

右の「かならず入れる言葉」を 使って 書きます

- (1) 弟の いたずらに、母は 手を焼いて いる。

かならず入れる言葉：こまって

弟の いたずらに、母は あつかいに こまって いる。

意味：あつかい方が わからず こまる ×れい：手が 熱く なった

- (2) あの 人は 口が軽い ので、ひみつの 話は できない。

かならず入れる言葉：しゃべって

あの 人は すぐに しゃべって しまう ので、ひみつの 話は できない。

意味：ひみつを 守れず、何でも しゃべる ×れい：口のおもさが 軽い

- (3) いつも ちらかして いると 言われて、耳が痛い。

かならず入れる言葉：つらい

いつも ちらかして いると 言われて、聞くのが つらい。

意味：自分の わるい ところを 言われて つらい ×れい：耳が いたく なった

- (4) 兄は マンガに 目がない。

かならず入れる言葉：大すき

兄は マンガが 大すきだ。

意味：むちゅうに なる ほど 大すき ×れい：目が なく なった

- (5) 引っこしの とき、近所の 人が 手を貸して くれた。

かならず入れる言葉：手つだって

引っこしの とき、近所の 人が 手つだって くれた。

意味：仕事を 手つだう ×れい：手を かし出した

2 慣用句を 使って 書きかえよう

下の 箱から えらびます。使わない 言葉も あります

- (6) クラスの みんなが、同じ ことを いっせいに 言った。

クラスの みんなが 口をそろえて 言った。

大ぜいが みんな 同じ ことを 言う

- (7) ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は とても おどろいた。

ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は 目を丸くした。

おどろいて 目を 大きく ひらく

- (8) 先生の 話を、みんなは しんけんに 聞いた。

先生の 話に、みんなは 耳を傾けた。

相手の 話を しんけんに 聞く

- (9) なくした 消しゴムを、見のがさない ように 一生けんめい さがした。

なくした 消しゴムを、目を皿にして さがした。

目を 大きく ひらいて 熱心に 見る

- (10) そうじの 時間に、ぼくは めんどうで いいかげんに やって しまった。

そうじの 時間に、ぼくは 手を抜いて しまった。

やる べき ことを いいかげんに する

○の つけ方

こたえは 一れいです。たとえば「手を焼く」を「手が 熱く なった」と 書いて いたら もう 一度。

☐ かならず入れる言葉が 入っている ☐ もとの 文と 同じ 意味 ☐ 字の とおりの 意味じゃない